

令和元年度 重点研究の総合評価（事後・中間）

重点研究 事後評価（終了課題）

課題名	担当機関 (○は主管機関)	研究 期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
			内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	評 価	意 見
重点① 現地牛群データに基づき乳牛の周産期疾病低減を目指した乾乳期飼養管理法の体系化	○酪農試験場	H28-30	a	a	a	A	A	極めて大きなデータを扱い、統計的に明確な結果をもとにアニマルウェルフェアと酪農家の経済性を両立する方策を提言している。乳牛の周産期疾病の被害軽減が期待されるので、マニュアルの普及拡大を図ること。
重点② 苗木需要量の増加に対応したコンテナ苗生産・植栽システムの開発	○林業試験場 林産試験場	H28-30	b	b	b	B	B	苗木生産の効率化に有効な研究成果であるので、早急な普及を図ること。併せて、北海道の山林に適した成果であることから、機械化による植栽作業の効率化・軽労化に向けた取り組みを継続すること。
重点③ 防腐薬剤処理木材を使った道路構造物の予防保全に関する研究	○林産試験場 林業試験場	H28-30	b	b	b	B	B	収集したデータから統計的に導かれる結論を精査するとともに、道路・橋梁などの分野で行われている予防保全の考え方を踏まえ、さらにデータを積み重ねて検証を進めること。
重点④ 金属3D造形による実用金型製造のための加工・熱処理プロセス技術の開発	○工業試験場	H28-30	b	b	b	B	B	道内製造業での応用が幅広く進むように、金属3D造形による金型製造の利点を活かして普及を図ること。

重点研究 中間評価 (継続課題)

課題名	担当機関 (○は主管機関)	研究 期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価		
			研究 目標 の 達成 の 進捗	活用 の 可 見 性	評 価	意見	評 価	意見	
重点⑤ 道東サケの漁獲回復を実現する「天然潟湖」を活用した新たなサケ放流体系の確立	○さけます内水面水産試験場 地質研究所 環境科学研究センター	H29-R2	b	b	b	B	潟湖の成長促進効果について明らかになったので、潟湖への最適な放流時期、放流数、サイズおよび潟湖生態系への影響評価について具体的に検討を進めること。	B	潟湖の成長促進効果について明らかになったので、潟湖への最適な放流時期、放流数、サイズおよび潟湖生態系への影響評価について具体的に検討を進めること。
重点⑥ カラマツ・トドマツ人工林における風倒害リスク管理技術の構築	○林業試験場 林産試験場	H30-R2	b	b	b	B	本課題における風倒害危険度マップの必要性を再確認するとともに、マップ内容を的確に示す名称にすること。植栽密度、木の太さ、風の強さの因果関係を明らかにして、他地域の人工林にも展開可能な管理技術開発を進めること。	B	本課題における風倒害危険度マップの作成については、継続の有無及び継続の場合にはその内容について再検討すること。植栽密度、木の太さ、風の強さの因果関係を明らかにして、他地域の人工林にも展開可能な管理技術開発を進めること。
重点⑦ レーザ加工を利用した自動車部品用金型の長寿命化技術の開発	○工業試験場	H30-R2	b	b	b	B	研究終了後の成果普及を確実なものとするよう、実際の技術の利用場面を想定して改質条件の検討や実証試験を進めること。	B	研究終了後の成果普及を確実なものとするよう、実際の技術の利用場面を想定して改質条件の検討や実証試験を進めること。
重点⑧ 道産りんごを活用したシードル製造技術の確立と商品化に向けた実証	○中央農業試験場 食品加工研究センター	H30-R2	b	b	b	B	品種と酵母の組み合わせについては、これまでの知見を活かし類型化など効率的な検討を行い、道産シードルの優位性・特徴を明らかにすること。さらに、シードルの一層の市場展開に向け、戦略やブランド化計画を検討すること。	B	品種と酵母の組み合わせについては、これまでの知見を活かし類型化など効率的な検討を行い、道産シードルの優位性・特徴を明らかにすること。さらに、シードルの一層の市場展開に向け、戦略やブランド化計画を検討すること。
重点⑨ 日本海産ホタテガイの韓国向け活貝輸送技術の開発	○中央水産試験場 食品加工研究センター	H30-R2	b	b	b	B	活力維持と生存率の目標を達成するために必要な各項目の目標値を明確にするとともに、コスト最小化が効果的に図られるよう細かな条件設定・制御方策を示すこと。	B	活力維持と生存率の目標を達成するために必要な各項目の目標値を明確にするとともに、コスト最小化が効果的に図られるよう細かな条件設定・制御方策を示すこと。
重点⑩ 道産ブリの加工利用を促進させる高次加工品製造技術の開発	○食品加工研究センター 網走水産試験場	H30-R2	b	b	b	B	商品価値を高め、保存期間を延ばす取り組みは評価できる。結果の検証を進めるとともに、普及へ向けた市場性評価や認知度の向上に向けた方策を検討すること。	B	商品価値を高め、保存期間を延ばす取り組みは評価できる。結果の検証を進めるとともに、普及へ向けた市場性評価や認知度の向上に向けた方策を検討すること。
重点⑪ 牧草被害低減と利活用率向上に向けたエゾシカ捕獲技術の確立	○環境科学研究センター 林業試験場 工業試験場	H30-R2	b	b	b	B	実用的な捕獲技術とするため、捕獲の確実性や実需者が導入可能なコスト等を検討しながら研究を進めること。	B	実用的な捕獲技術とするため、捕獲の確実性や実需者が導入可能なコスト等を検討しながら研究を進めること。
重点⑫ 木質バイオマスエネルギーの高性能な供給・利用システムの開発	○北方建築総合研究所 林産試験場 工業試験場 環境科学研究センター	H30-R2	b	b	b	B	実環境を想定した実験や実証試験を行い、建物側の様々な熱需要をふまえた具体的なエネルギーシステムの開発を進めること。また、資源供給側への波及効果も検討すること。	B	実環境を想定した実験や実証試験を行い、建物側の様々な熱需要をふまえた具体的なエネルギーシステムの開発を進めること。